

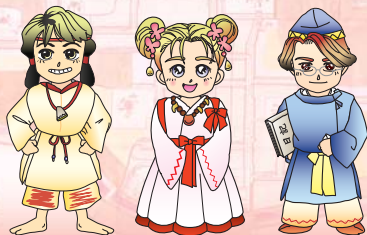


いばらきしりつぶんかざいしりょうかん

いばらきの 歴史を探ろう!

近世

編



Ibaraki Municipal Cultural Properties Depository

茨木市立文化財資料館



日本の歴史年表とともにふりかえる

いばらきの歴史 近世編



	和暦(西暦)	主な日本の出来事	いばらきの歴史
江戸時代	慶長 8 (1603)	とく がわいえ やす 徳川家康、江戸幕府を開く	
	慶長19 (1614)	大坂冬の陣がおこる	
	元和元 (1615)	大坂夏の陣がおこる 一国一城令の発布	
	元和 3 (1617)		茨木城がとりこわされる
	寛永12 (1635)	参勤交代制度ができる	
	元禄13 (1700)		あさ の たく みのかみながのり こおりやましゅくほんしん 浅野内匠頭長矩、郡山宿本陣に 宿泊
	元禄15 (1702)	あこうろう し あだう 赤穂浪士の仇討ち	
	享保 6 (1721)		郡山宿本陣、火事のため再建 はた なか こんない み やま 畑中権内が深山水路を開くか
	文化 6 (1809)		天明2、3年(1782・83年)頃、 太田村で寒天づくり開始 い のうただ たか 伊能忠敬が郡山宿本陣に宿泊
	文政11 (1828)		こ にしあつよし 小西篤好が『農業余話』を出版
	文政12 (1829)		松沢池がつくられる
	天保 4 (1833)	き きん 天保の大飢饉はじまる	
	天保 8 (1837)	おおしおへいはちろう 大塩平八郎の乱おこる	
	嘉永 6 (1853)	アメリカの使節ペリーが 浦賀に来る	
	万延元 (1860)	桜田門外の変	
	慶応 3 (1867)	とく がわよしのぶ ほうかん 徳川慶喜が大政を奉還する 王政復古が宣言される	

史跡マップ



遺跡・史跡

① クルス山 (キリシタン墓碑)

さいこくかいどう

② 西国街道

こおりやましゆくほんじん

③ 郡山宿本陣

こにしあつよしけんしょうひ

④ 小西篤好顕彰碑

えいか

⑤ 盈科書院

⑥ 深山水路

⑦ 深津氏墓碑

⑧ 松沢池

ちへい

⑨ おさん茂平道中碑

いお

⑩ 井於神社算額

そうじし

⑪ 総持寺算額

ほうちし

⑫ 宝池寺算額

⑬ 茨木別院



田畑の検地

とよとみひでよし

豊臣秀吉は、大坂城を根拠地として、天下統一をなしとげました。

秀吉は、田畑の広さを全国的に調べさせ、作物の取れる量や耕作する農民を決め、年貢^{ねんぐ}を確実に取れるようにしました。



ぶんろく

とよとみひでよしたいこう こけん ちちょう

文禄3年「豊臣秀吉太閤御検地帳」



太閤検地の
記録だね。

江戸時代は、この時の検
地を基本に年貢の取り立
てが行われたんだよ。



いばらきの領主

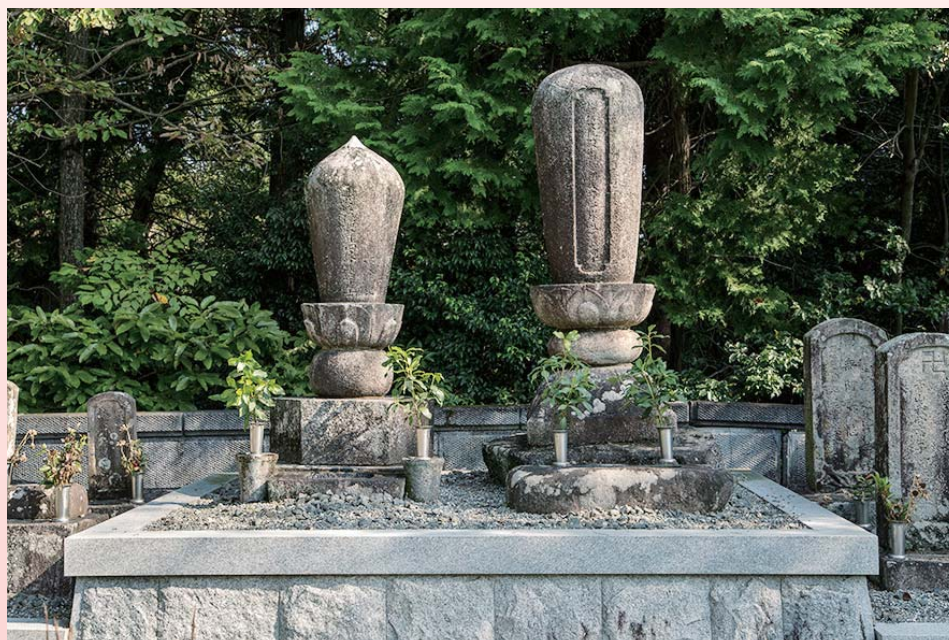
江戸時代は、将軍を頭とする武士の支配をかためるために、人々を武士と農民・町人などに分けて身分のちがいをきびしくしました。

江戸時代のいばらきは、はじめは将軍家の領地が多くありましたが、天皇家や大名、旗本（将軍の家来）の領地になんていき、何人もの領主がおさめました。



安威をおさめていた
領主のお墓が茨木に
残っているよ。

きょうぼう
このお墓は享保期
(1716～36年) の
ものですよ。



ふかつ
深津氏の墓碑

平野部・山間部の村

いばらきは、地理的にみると、平野部と山間部にわかれます。平野部・山間部の村は、農業を中心として生活をしていました。山で採れるものや、それぞれの土地を活かして農作物をつくっていました。



みずお
水尾村絵図



あお
粟生村絵図



江戸時代の村の様子は、^{えす}村絵図から分かるよ。

田んぼや山、川、人の住んでいる場所が描かれているよ。



農業と用水

いばらきでは、たくさんの米がとれて、ほかの地域にも出荷されて
いました。米をつくるためには、大量の水が必要でした。そのため、
江戸時代中期頃に畑中権内が深山水路をひらいたと伝えられ、文政
12年(1829年)には松沢池が作られるなど、川や池などの用水も整
えられました。また、佐保村馬場で生まれた小西篤好は米・麦などの
つくり方を解説した『農業余話』を文政11年(1828年)に出版してい
ます。



用水はいくつかの
村で共同で利用し
ていたんだよ。



けんしやうひ
小西篤好頭彰碑



松沢池絵図(岡村家文書)

農業余話は、
京都や大阪で
出版されたん
ですよ。



いばらきの産物

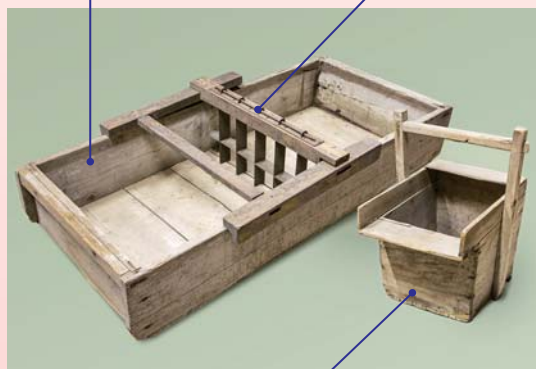
いばらきでは、山間部や平野部の土地柄にあわせて、^{かんてん}寒天や^{な たね}菜種、ウドといった産物がつくられました。寒天は、ゼリーのような食べ物で、^{てんめい}天明2、3年(1782~1783年)頃に太田村でつくられ始め、周辺の村でもつくるようになり、江戸・大坂、海外にまで売られました。菜種は種から油をとるためにつくられた作物、ウドは青物野菜で、いばらきの各村でつくられました。こういった産物は商品として売られました。



寒天は海草から作るんだよ。
蜜をつけて食べるとおいしいよ。

^{こぶね}
小槽 (海草の煮汁を
冷まして固める道具)

マグワ (固まった
心太を切る道具)



^{かえこし}
替越 (小槽に海草の煮汁を移す道具)

替越・小槽・マグワ

^{ところてん}
心太突き (心太を押し出して、
糸寒天を作る道具)



糸寒天と心太突き

さまざまな職人

木に関わる仕事をした^{そま}杣（木をきる人）・木挽^{こびき}（木を加工する人）・大工、鉄の加工に関わる仕事をした^{いもし}鋳物師といった職人も各村に住^{がしら}んでいました。いばらきの杣・木挽・大工は、幕府の京都大工頭中井家の支配下にあり、福井大工組に入っていました。



福井組大工鑑札
(個人蔵、市史編さん室提供)

福井の大工は、天皇
家の建物づくりなど
に関わったんだよ。



鍛冶	木挽	同	同	小工
十右門	利兵衛	三右門	権左門	加兵衛

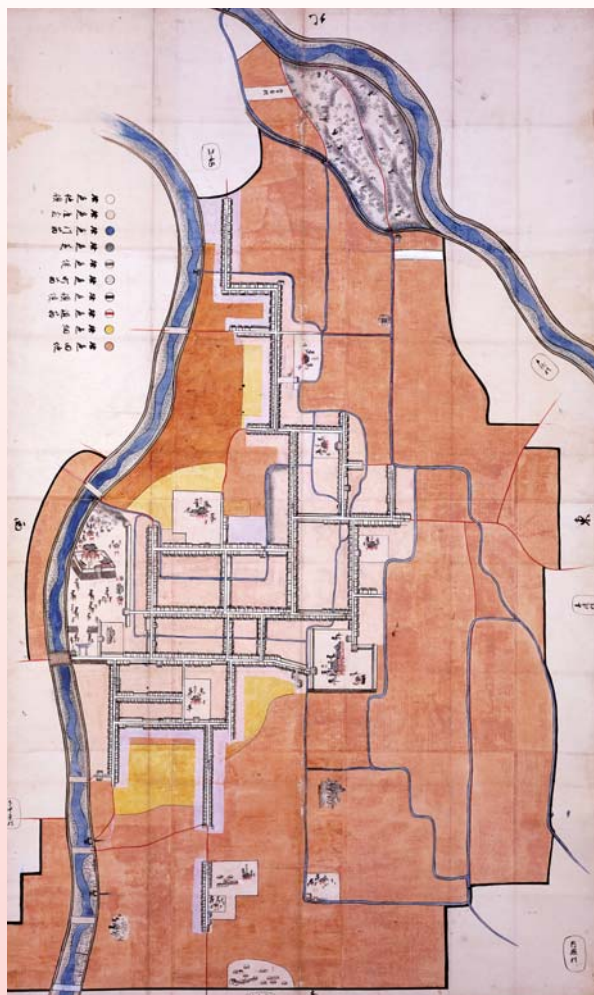


巧匠福井村住人

棟札 (大門寺蔵)

茨木村の発達

江戸時代の茨木村は、人が多く住んだ町場（在郷町^{ざいこうまち}）として発達していきま^{からさき}した。商人も住んでいて、茨木街道を通じて高槻の唐崎から物資が運ばれたり、人や物の交流が行われていました。



茨木村絵図 (天保14年〈1843年〉)
(茨木神社蔵、市史編さん室提供)



茨木村は、近くの村
や大坂、京都、四国
から人や物が行き来
していたんだよ。



米屋、桶屋、油屋や
いろいろなお店が茨木
村にはあったんだよ。

さい ごく かい どう
西国街道

江戸時代のはじめに、全国の街道がととのえられて、人や物の交流がさかんに行われるようになりました。いばらきを横断する街道として、西国街道があります。京都から西宮までの街道で、山崎通ともいやまざきどおりいました。



やまざきどおりぶんけんのへ え す
山崎通分間延絵図

(文化3年〈1806年〉)

(東京国立博物館蔵 Image : TNM Image Archives)



絵図の真ん中に書かれているのが
西国街道だね。

郡山宿と郡村がみえるよ。



こおり やま しゅく ほん じん
郡山宿本陣

西国街道には5つの宿場町があり、いばらきには郡山宿がありました。街道は、大名が参勤交代で江戸へ向かうためにも利用され、大名が宿泊する施設として、本陣がつくられていました。



郡山宿本陣外観



ちようちん
提灯のかかって
いる御成門から
お殿様は本陣に
いったんだね。

お殿様は上段
の間に寝泊り
したんだよ。



じょうだん
上段の間

寺社と旅

江戸時代、見物や遊びを目的に、庶民^{しよみん}も旅に出ました。各地の名所をまとめたものが本にされて、摂津国では『摂津名所図会』^{せつ っ づ めいしよ す え}がつけられました。いばらきでは、大門寺^{だいもんじ}や総持寺^{そうじじ}などが名所としてあげられています。また、いばらきでは伊勢神宮^{い せ じんぐう}にお参りする伊勢講^{い せ こう}が各村でつくられていました。



総持寺（『摂津名所図会』）



こういった案内をみて、名所をまわっていたんだね。



伊勢講でかかった費用が書いてありますよ。



郡山伊勢講文書

江戸時代の学習

庶民は、寺子屋や私塾で、読み書きやそろばんを習いました。いばらきの有名な私塾に村田季武の盈科書院があります。盈科書院は泉原の大原山につくられ、書物の話がされました。また、総持寺や忍頂寺、井於神社などでは、和算（日本の数学）の問題が書かれた額（算額）がのこっており、江戸時代の学習について知ることができます。



井於神社の算額



村田季武の墓（高槻市宝泉寺）

盈科書院にある本は、自由に見ることができたんだよ。



算額の問題はすごく難しいですよ。



かく

隠れキリシタンを知っていますか？



江戸時代には、キリスト教の信仰が禁止されていましたが、茨木の山間部の千提寺・下音羽地区では、隠れてキリスト教の信仰が続けられました。その信仰の道具が今に伝えられています。



ひつ
あけずの櫃

(個人蔵、市教育委員会寄託)



あけずの櫃にザビエル
像やマリア十五玄義図
が入っていたんだよ。



聖フランシスコ・ザビエル像

(神戸市立博物館蔵)



マリア十五玄義図

(個人蔵、市教育委員会寄託)

キャラクター紹介



● **いすずちゃん**
いばらき生まれのおひめさま。めずらしいものや新しい発見が大すき。



● **たまくしひめ**
いすずちゃんのお母さん。怒ると大雨をふらせる。

● **みぞくいみみのかみ**
いすずちゃんのおじいさん。村の長老。



● **かまたりくん**
いばらきを愛する男の子。とても物知り。趣味は日本の未来を考えること。



● **ひがしならくん**
元気な弥生人の男の子。ごはん(お米)を食べるのが大好き。銅たく製作工房の見習い。

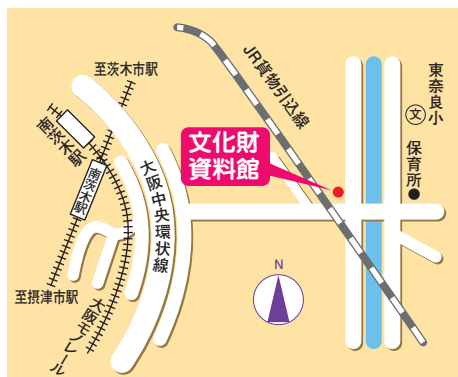
利用案内

開館時間 午前9時～午後5時

休館日 毎週火曜日(その日が祝日の場合を除く。)
祝日の翌日(その日が日曜日の場合を除く。)
12月29日～翌年1月3日

入館料 無料

お願い 他の見学者に迷惑のかからないように
静かにご覧ください。



茨木市立文化財資料館

〒567-0861
茨木市東奈良三丁目12番18号
電話 (072) 634-3433
FAX (072) 637-4745
市ホームページ
<http://www.city.ibaraki.osaka.jp>
阪急南茨木駅下車東へ300m

リサイクル適性(A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。



このパンフレットは5,000部作成し、1部あたりの単価は78円です。